

お話

鹿児島大学教育学部附属幼稚園

政野 幸恵先生

鹿児島大学教育学部附属小学校

榊 将和先生

特別の教科 道徳の特徴

特別の教科 道徳は、学校の教育活動全体で行う道徳教育の要であり、内面的な資質である「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を養うことを目指しています。

幼児期では、遊びの中で、友達の気持ちを理解したり、共感したりする中で、きまりを守る必要性を理解し、相手の立場に立って行動することができるようになっていきます。

例えば、幼児期でよくみられる「動植物やぬいぐるみになりきる」「年長クラスの幼児が年少クラスの幼児のお世話をする」といったやり取りは、「親切、思いやり」「友情、信頼」といった、小学校学習指導要領における内容項目「B主として人との関わりに関すること」の視点につながります。「相手の立場に立って考える」「相手の喜びを自分の喜びとして感じる」といった体験を通して、「親切の意義」や「友達の大切さ」などを体得していきます。

こういった体験を豊かにすることで、自己中心性から未脱却の発達段階にある小学校低学年期においても、友達と折り合いを付けていこうとしたり、助け合いながら協働的に活動に取り組もうとしたりする姿につながっていきます。

幼児期の遊びを通した学び

幼児期には、幼児は自分以外の幼児の存在に気付き、社会性が著しく発達していきます。幼児が遊びを通して友達と十分に関わって生活することで、社会性、道徳性が培われていきます。

具体的には…

- 砂場で山や海をつくって遊ぶ中で、自分のイメージを友達に伝えたり友達の言葉を聞いたりして、友達と思いや考えを共有している
- 曲に合わせて自由に表現したり、友達の動きに合わせて動いてみたりすることで、友達と一緒に表現することを楽しんでいる
- お店屋さんごっこをしたいという思いから、イメージした品物を自分たちで作って準備し、年下の子を招待して、優しく接したり、思いやったりしている
- 友達と誘い合って鬼ごっこを始めるとき、鬼決めや逃げる場所などのルールを確認し合い守ろうとしている

幼児期の 遊びを通した学び

と

特別の教科 道徳 善悪の判断、 自律、自由と責任

とのつながり



遊びを通した学び

「フルーツバスケットする人
この指とまれ」仲間を集めて遊
びを始めようとする時、小さい組
の子がいたことに気付いた。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

4歳児の戸惑いに気づき、どうしたらよいかを
考えることができるよう、「どんなルールだ
ったかな」と5歳児に問いかけます。
5歳児は、4歳児にも分かるように話し方
を考えます。大勢で遊ぶにはルールを共有
する必要があることを実感していきます。



遊びを通した学び

鬼ごっこをしているうちにルールが
変わっていき、捕まえることができず
遊びが中断。「みんなで話し合おうよ」
と呼びかけている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

遊びが中断したときを捉えて、「なんだか
うまくいかなかったね」などと投げかけ、
自分たちで考える姿を見守ります。気持
ちや考えを言葉でやり取りする中で、楽
しく遊ぶためにはルールを守る必要があ
ることに気付いていきます。



遊びを通した学び

「どこにどの絵本があるか分からない
よ」「コーナーをつくってあげる」と、
分かりやすい方法を考え、絵や文で示
している。



遊びを通した学び

「どっちが高いかな」「負けな
いよ」「こっちの方が高いよ」二組に
分かれて小さな積み木の高さ競争を
し、負けても気持ちを切り替えて再
度挑戦している。



遊びを通した学び

3歳児がかけっこの練習をして
いることに気づき、「がんばれ！」と
伴走しながら励ましたり、コース
から外れないように手を広げて案内
したりしている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

年下の子が一生懸命に走る姿を見て、
自分にできることを考えて行動する
姿を捉え、学級で紹介します。よいと
思うことを進んで行おうという意欲
や態度につながっていきます。



遊びを通した学び

「待って！そこは掘らぬで」「こ
こに道をついてい」と意見の食い違
いが起きてしまったが、自分の考
えを伝えたり、友達の考えを受け
止めたりしている。

幼児教育を通して育まれた10の姿

● 道徳性・規範意識の芽生え

● 協同性

※これらの活動では他にも「健康な心と体」「言葉による伝え合い」「思考力の芽生え」などの姿も見えてとれますが、ここではあえて「善悪の判断、自律、自由と責任」に深くつながるものだけを抜粋して記載しています。

小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- 身近な人と関わりながら活動することで、してよいことと悪いことがあることを知ること
- 相手の立場に立って行動し、よいと思うことを進んで行うこと

幼児期の遊びを通した学び

気持ちのぶつかり合いの場面で、ルールを共有しようとしている。
年下の子の手伝いを進んで行おうとしている。

ねらい

よいことをするとは、自分がよいと考えたことを進んで行っていくことであるということに気付き、他者との関わりの中で、自らの体験場面と重ね合わせて多面的・多角的に考え表現することを通して、自分自身の生き方を見つめながら、よいと考えたことを進んで行っていこうとする道徳的判断力を育てる。

内容項目

①第1学年及び第2学年

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。

②第3学年及び第4学年

正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。

③第5学年及び第6学年

自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

【授業展開例】

気付く

よいことをすることについての捉えを発表する。



★これまでによりことをしたなと思うことがありますか。

- 年下の子を手伝ってあげたよ。
- 電車で席を譲ったよ。
- 先生の話をしっかり聞くことができたよ。

★みんな、これまでもたくさんよいと思うことをがんばってきたんだね。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期における遊びや日常生活の中で行動を想起させながら、自他の捉えを比較させる。

さぐる

よいことをすることについての捉えの曖昧さに気付き、考えていきたい問題を見付ける。



★先生は、電車で席を譲ろうと思って立ち上がったけれど、声を掛けられなかったことがあったんだけど、これはよいことをしたと言えるかな。

- 譲ろうと考えたことはいいと思うよ。
- 声を掛けられなかったら、だめじゃないかな。
- どちらとも言えないな。

よいことやよくないことやみんなで考えたいな！



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期の学びを生かして、子供たちが自分の気持ちや立場を優先してよいと思うことが難しかった場面を想起できるような発問を設定する。

よいことをするとは、どういうことだろう。

見付ける

教材文を読み、主人公の行動に対する捉えとその理由について話し合う。



★主人公は、よいことをしたと言えるだろうか。

- 言えるよ。友達を助けたからね。
- 助けたとは言えないのではないかな。
- 声を掛けていないから先生の話と似ているよ。
- 注意できていたらよかったと思うな。

★どちらかに決めることは難しそうですね。



どうして言えないと思うの？



深める

話し合いの中で生まれた問いについて、さらに話し合う。



★言おうと思っただけでもよいことをしたと言えるのだろうか。

- やっぱり実際に言わないとよいとは言えないよ。
- 後のことや家族や、いろいろな人のことも考えたら言った方がいいよ。

★よいと思ったら進んでやってみることが、大切なかもしれませんね。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

一人一人の気付きを拾い上げながら、クラス全体で共有していくことで、見方・考え方を養っていく。

見通す

学習したことを振り返り、自分なりの考えをまとめる。



★よいことをするとはどういうことかについて自分なりの考えを話し合ってみましょう。

- よいことをすることは、考えたことをやってみることだと思う。
- これからも、よいと思ったら勇気を出してやっていきたい。

★最後に先生の話をお聞きしましょう。



幼児期の 遊びを通した学び

と 特別の教科 道徳 家族愛， 家庭生活の充実 とのつながり



遊びを通した学び
「どんな七夕飾りをつくろうかな」と自分がつくりたい飾りを考えたり、家族の分も飾りをつくったりして、七夕飾り製作を楽しんでいる。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

家族と一緒に願い事を考えたり、飾りをつくったりする機会をつくれます。幼児は園での出来事を家族に積極的に話し、話す喜びや受け止められる嬉しさを味わい、愛情を感じながら、より一層家族への思いを深めています。



遊びを通した学び
「先生、こんなのをつくったらいいんじゃないかと思って持ってきたよ」とお家で見つけたチラシを見ながら、お店屋さんごっこに使うチラシをつくっている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

幼児のアイデアを認め、チラシづくりを見守ります。また、チラシをきっかけに、家族との買い物やお店の人とのやり取りなどの体験を想起し、遊びに再現していく中で、自分の生活には様々な人が関わっていることに気付いていきます。



遊びを通した学び
あじさいを見つけて「先生、切って持って帰ってもいいですか」「ママにおげの」と園庭で花を探して花束をつくっている。



遊びを通した学び
「今日はお姉ちゃんの誕生日だからケーキをつくっているの」「これはプレゼント」と、大好きな家族が喜ぶように考えながらつくっている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

誕生日をお祝いしたい、喜ばせたいという幼児の思いが実現するよう、使い慣れた廃材の他にもイメージをくすぐるような材料を要求に応じて出せるように用意しておきます。



遊びを通した学び
園で収穫したアズキの実でジャムをつくることが決まると、「お母さんが、砂糖が必要だって言ってたよ」と、教わったやり方を嬉しそうに話しながらつくっている。



遊びを通した学び
「取って」「早く」など親子で様々なゲームをしながら、親子で触れ合う時間を楽しんでいる。

幼児教育を通して育まれた10の姿

- 社会生活との関わり
- 自立心

※これらの活動では他にも「道徳性・規範意識の芽生え」「思考力の芽生え」「豊かな感性と表現」などの姿も見えてとれますが、ここではあえて「家族愛， 家庭生活の充実」に深くつながるものだけを抜粋して記載しています。

小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- 家族が自分にとってかけがえのない存在であるという気持ちをもつこと
- 家族のために自分ができることを考えて役に立つことを行うこと

幼児期の遊びを通した学び

見つけた花や木の実を持ち帰って、家族を喜ばせようとしている。
家族のために、作品を製作しようとしている。

ねらい

家族を手伝うことは、家族の役に立つ喜びを感じられるよさがあるということに気付き、他者との関わりの中で、自らの体験場面と重ね合わせ、多面的・多角的に考え表現することを通して、自分自身の生き方を見つめながら、家族のために自分にできることを進んでしていこうとする道徳的心情を育てる。

内容項目

①第1学年及び第2学年

父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。

②第3学年及び第4学年

父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。

③第5学年及び第6学年

父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。

【授業展開例】

気付く

家での手伝いについて発表し、なぜ手伝うのかについて話し合う。



★園にいたときは、家族のために、どんなことをしたことがあるかな？

- 家族のために、プレゼントをつくったことがあったよ。
- 洗濯物をたたんだことがあったよ。

★みんなは、どうしてお手伝いをしているのかな？

- 家族が喜ぶから。
- 親にお願いされるから。

★他にも、お手伝いをする理由ってあるのかな？

言われたらやっていたので、考えたことがなかったな！



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期におけるお手伝いの経験を想起させながら、意見を出し合うことができるようにする。

どうして おてつたいをすると よいのかな。

さぐる

教材を読んで、手伝いをする理由について話し合う。

★楽しいことをしているのに、お手伝いに行くことができるだろうか。

- 途中でやめて手伝うのは難しいよ。
- 夜中まで働いているお母さんのことを考えたらできる。
- 手伝ってあげたいけれど、遊びたい気持ちもある。

POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期における家族との触れ合いや手伝って喜ばれた経験を想起できるようにする。

見付ける

遊びをやめてまで手伝いをする事ができるか、さらに話し合う。

★遊ばせてくれてもよいのではないだろうか？主人公になりきって、発表してみよう。

- 子供だから甘えてもいいのではないかな。
- 遊びは、後でもできるけれど、お手伝いはその時しかできない。
- 今しないと、お母さんが一人することになる。
- 手伝った方が、お母さんが助かる。

★〇〇さんは、どんな気持ちで「甘えてもいいのではないかな」と言ったのかな？

- 自分も「ちょっと待って」ってお母さんに言うことがあるよ。
- 確かに「今遊んでるの」と言うことがあるな。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

役割演技を行い、主人公の心情に自我関与させながら、表出された考えをクラス全体で共有していくことで、見方・考え方を養っていく。

深める

家族を手伝うことのよさについて話し合う。

★手伝うことは誰のためになるのだろう。

- お母さんが、少しでも早く眠ることができる。
- 自分が手伝えば、家族と一緒に遊ぶ時間ができる。

★家族を手伝うことで、自分にとっていいことがあるのかもしれないね。



お母さんを手伝えば早く終わる！



見通す

本時の学習をまとめ、生かしていきたいことを考える。

★手伝いをするよさについて、話し合ってみましょう。

- 家族が楽になるだけでなく、自分も嬉しくなるね！
- 自分のことを自分でするだけでも、役に立つと思うよ。

★最後に先生の話をお聞きしましょう。



幼児期の遊びを通した学び

と

特別の教科 道徳 自然愛護

とのつながり



遊びを通した学び

たくさん集めたどんぐりをよく見ると、形に違いがあることに気付いた。「これは何だろう」と図鑑と照らし合わせ、種類ごとに分けている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

幼児の気付きに応じて、図鑑や種類分けに使えるような容器を準備します。「この種類が少ない」「もっと集めたい」などの思いを捉えて、「どこにあるかな」などと問いかけることで、身近な自然への興味や関心が広がっていきます。



遊びを通した学び

池にいるエビやメダカを捕まえた。「水族館にして他のクラスの友達にも見せたい」と水槽に入れて大切にお世話をし、水族館ごっこを始めた。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

捕まえた嬉しさから大切に育てたい、見せたいと幼児の心が動いていったことを大切に、幼児自ら場づくりができるよう環境を整えます。水族館ごっこを進める過程で、友達と考えを伝え合い、生き物を飼育する意識や愛着が芽生えていきます。



遊びを通した学び

たくさんの落ち葉を集めてその中に寝転び「先生見て！葉っぱのお布団」と葉っぱのすれ合う音や匂いなど様々な感触を味わっている。

遊びを通した学び

自分たちで育てているキュウリが大きくなると「先生、キュウリ食べたい」と思いが膨らみ、「何にして食べる？」「サラサしよう」と思いを伝え合っている。



主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

衛生面や安全面に配慮しながら、育てた野菜を食べたい思いを実現していきます。植物の世話をしてきたことが、実がなる嬉しさや収穫の喜びにつながることを感じていきます。



遊びを通した学び

テントの上にバッタを発見。「届かないよ」「椅子を持ってきて」「僕の方が背が高いわから届くよ」とバッタを捕まえるために試行錯誤している。



遊びを通した学び

伐採された木の枝を見て「木の家を建てたい」という思いをもった。「この枝を使おう」「こっちの方がいいよ」など友達とイメージを共有しながら枝を探している。

幼児教育を通して育まれた10の姿

● 自然との関わり・生命尊重

● 思考力の芽生え

※これらの活動では他にも「道徳性・規範意識の芽生え」「協同性」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」などの姿も見られますが、ここではあえて「自然愛護」に深くつながるものだけを抜粋して記載しています。

小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- 身の回りの動植物に触れて様々に心を動かす体験を積み重ねながら、身近な自然に親しみをもつこと
- 動植物の成長の過程を間近に見ながら愛着をもち、大事に守り育てようとする気持ちをもつこと

幼児期の遊びを通した学び

落ち葉や生き物に触れるなど自然と関わろうとしている。
園庭で見つけたどんぐりを図鑑で進んで調べようとしている。

ねらい

生き物に優しくするとは、生き物についてよく知ることが大切であるということに気付き、他者との関わりの中で、自らの体験場面と重ね合わせ、多面的・多角的に考え表現することを通して、自分自身の生き方を見つめながら、生き物を大切にしていこうとする道徳的心情を育てる。

内容
項目

①第1学年及び第2学年

身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。

②第3学年及び第4学年

自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。

③第5学年及び第6学年

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

【授業展開例】

気付く

生き物に優しくできた経験とできなかった経験を発表し合う。



- ★これまでに、生き物に優しくできたことってありますか？
 - 池にいるエビやメダカを捕まえて、育てたよ。
 - ペットのお世話をしているよ。
- ★園の生活の中で、何か育てたことがあったかな？
 - 青虫を育てて、ちょうちょになったよ。
 - バッタを捕まえたこともあったよ。
- ★みんな、たくさん生き物と触れ合ってきたんだね。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期における自然と触れ合った経験について事前アンケートを生かして、想起することができるようにする。

さぐる

日常生活の中にありそうな問題を提示し、考えたいことを話し合う。

- ★先生も子供の頃、くわがたを育てていたのだけれど、途中で死んでしまったんだ。これは、生き物に優しくできたと言えるかな。
 - 大事に育てていたのなら仕方ないと思うよ。
 - 優しいとは言えないけど、難しいね。
 - 最後まで育てられたらよかったと思う。

自分にもそんなこと
あったな！それは、優しい
と言えるか難しいな



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期の経験の想起から、自分の捉えと自分の行動の矛盾に気付くことができるようにするなど、主体的に考えたい問いを見いだすことができるようにする。

いきものにやさしいとは、どういうことだろう。

見付ける

教材を読んで、生き物に優しくすることについて話し合う。



- ★主人公は、生き物を大切にしていたのだろうか？
 - 大切にしていたと思うよ。
 - 自然が大好きだからいいと思うよ。
 - 捕まえるのは、生き物の家族が可哀想じゃないかな。
 - 捕まえたい気持ちも分かるな。



大事に育てたら優しさが伝わる
んじゃないかな？



深める

話し合いの中で出てきた問いについて、さらに話し合う。

- ★大事に育てることは、生き物に優しくすることにならないのだろうか。
 - 大事にしたら、気持ちは伝わると思うな。
 - 本当に、その生き物のことを考えたら、狭い虫かごで育てるのは、可哀想だと思う。
 - その生き物はどういう場所に住んでいるのかをよく考えたい。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

一人一人の気付きを取り上げながら、クラス全体で共有していくことで、見方・考え方を養っていく。

見通す

学習したことについて感想をもち、今後に生かしていきたいことを考える。

- ★生き物に優しくするとは、どういうことだと考えましたか。話し合ってみましょう。
 - 生き物の立場に立って考えたい。
 - 生き物について、よく知ることが大切だと思う。
 - 生き物に合った住む場所があると思った。
- ★最後に先生の話をお聞きしましょう。



幼児期の 遊びを通した学び

と

特別の教科 道徳 友情、信頼

とのつながり



遊びを通した学び
「ここの方がいいよ」「ほくにも貸して」など、友達と話し合い、時には意見の違いに折り合いを付けながら、友達と一緒にはしごをつくりあげている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

道具の準備をし、道具を安全に使うことができるように見守ります。同時に、自分たちではしごをつくりあげることができる場所と時間を保障します。このような遊びを通して幼児は、友達と一緒にやり遂げた喜びを味わっていきます。



遊びを通した学び
「ポテもつくだない?」「いいね!」お店屋さんごっこで使うものをイメージし、自分の意見を伝えたり、友達の思いや考えに共感したりしている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

幼児のこれまでのお店屋さんごっこの経験を思い出すことができるようにします。そして、どうしたら盛り上がったか聞いてみるようにします。このような援助は、幼児が自分自身のよかったことや足りなかったことに気づき、実践しようという意欲の高まりにつながっていきます。



遊びを通した学び
「この高さはどう?」「待って。こっち側の方がいいよ」と友達と一緒に試行錯誤しながら遊んでいる。



遊びを通した学び
「そっち持って」「引っ張るよ」と屋根のシートを付けるために、友達と協力したり、相手のことを思いやったりしている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

一人では持てない大きなシートを準備することで、友達と声を掛け合いながらシートを上からかけたり、中から引っ張ったりすることができるようにします。このような遊びを通して、幼児は友達と助け合ったり、協力したりすることの大切さを実感していきます。



遊びを通した学び
「幼稚園に怪獣がいる」と園庭に残された大きな足跡を手掛かりに、イメージしたことを伝え合っている。



遊びを通した学び
「私、最後に走りたい」「ほくも最後にいい」と意見が重なっても、自分たちで話し合い、相手を思いやって譲っている。



幼児教育を通して育まれた10の姿

- 協同性
- 道徳性、規範意識の芽生え

※これらの活動では他にも「思考力の芽生え」「健康な心と体」「言葉による伝え合い」などの姿も見えてとれますが、ここではあえて「友情、信頼」に深くつながるものだけを抜粋して記載しています。



小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- 友達の気持ちに共感したり、折り合いを付けたりしながら、友達と仲よく活動すること
- 友達と関わる中で、共通の目的の実現に向けて、協力したり、助け合ったりすること

幼児期の遊びを通した学び

友達と助け合ったり協力したりすることの大切さを感じている。
友達と話し合い、折り合いを付けながら、一緒に活動している。

ねらい

友達がいることで、互いに助け合ったり、より仲よくなれたりするというよさに気付き、他者との関わりの中で、自らの体験場面と重ね合わせて多面的・多角的に考え表現することを通して、自分自身の生き方を見つめながら、友達と助け合って生活していこうとする道徳的判断力を育てる。

内容項目

①第1学年及び第2学年

友達と仲よくし、助け合うこと。

②第3学年及び第4学年

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

③第5学年及び第6学年

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

【授業展開例】

気付く

子供自身の友達についての捉えを発表し合い、考えていきたい問題に気付く。



- ★友達ってみんなにとって、どんな人ですか。
 - 一緒に遊べる人。
 - 何か貸したり借りたりできる人。
- ★そんな友達がいると、どんないいことがあるかな。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期における友達と協働的に活動した経験を事前アンケート等で想起できるようにする。

ともだちがいるよさとは、なんだろう。

さぐる

教材を読んで、考えていきたい問題について話し合う。



- ★お話を聞いて、どんなことを思ったかな。
 - うさぎさんが優しい。
 - この後、きつねさんが、どうしたのが気になる。
- ★この後、2人はどうなるのだろう。実際に、動物になってお話ししてみよう。
 - ごめんね。ぼくが見付けたどんぐりもあげるよ。
 - 2人でどんぐりを食べよう。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

幼児期のごっこ遊びの経験を生かして、登場人物の気持ちを考えた役割演技ができるようにする。



見付ける

登場人物にとっての友達がいるよさについて話し合う。



- ★2人に、友達がいるよさがあるだろうか。
 - 助けてもらえるよ。
 - 役に立って嬉しいと思うよ。
 - 片方にとってのよさしか分からないな。
 - 助けた方も、友達の役に立って、嬉しいよさがあるよ。



友達が助かったら、自分も嬉しくならない？



深める

話し合いの中で生まれた問いについて、さらに話し合う。



- ★友達を助けた方も嬉しい気持ちになるのだろうか。
 - どちらも嬉しくなると思うよ。
 - ぼくも、友達を助けて嬉しかったことがあるよ。
- ★友達は、お互いにとってよいことがある関係なんだね。



POINT

幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

一人一人の気付きを取り上げながら、クラス全体で共有していくことで、見方・考え方を養っていく。

見通す

学習したことを振り返り、自分なりの考えをまとめる。



- ★授業を通して、友達がいるよさをどう考えましたか。
 - 友達がいると、お互いに助け合ってどちらも嬉しくなるよさがありそうだね。
 - もっともっと仲よくなれるというよさもありそうだよ。
- ★最後に先生の話をお聞きしましょう。

